

栃木県埋蔵文化財センターだより

# やまかいどう



小山市立小山第三中学校職場体験学習(竪穴住居跡発掘作業風景)

特集

## 石器を作ろう!

発掘現場の最新情報! **発掘現場レポート**

**発掘調査現地説明会「西赤堀遺跡」**

施設紹介『ミュージアム氏家』

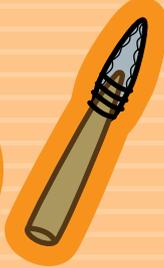
とちぎテレビ「謎の道 東山道を探る」

No.

34

2003.10

# 石器を作ろう



鉄や銅などの金属を知る以前、私たちの祖先は石で作った石器などを使って生活していました。昔の方法で石器を作ることは、石器のことを詳しく知るための方法の一つですが、旧石器時代や縄文時代の人々の生活を実感させてくれることでもあります。皆さんも自分で石器を作ってみると、きっと当時の人々が身近に感じられることでしょう。

## 石器を作るために…

石器を作るのは、材料となる石をはじめ、ちょっとした準備が必要です。まず、下の写真のように石器作りの用意をしましょう。

### ゴーグル

石器を作るときに飛び散る小さな石のかけらから目を守ります。めがねのようなものではなく、顔に隙間なく密着するタイプが良いでしょう。

### ハンマー

石を割るための道具。硬い川原石や鹿角、堅い木などをハンマーとして使います。石の場合は、こぶし大のものや卵大のものなどをそろえておくといいでしょう。鹿角は石器作りに売られているものもありますが、長い鹿角を20cmほどに切って使っても大丈夫です。

### 服装

ケガをしないよう、長そでのシャツに長いズボンを着て、手には革製の手袋が軍手をします。靴はふつうの運動靴でいいのですが、足の甲がむき出しのもの(学校の上履きのようなもの)や薄い布製のものはさけた方がいいでしょう。短パンやサンダルは絶対ダメです。

### 石

ガラスのように割れる石が必要です。黒曜石ヘイワシタや頁岩、チャート、ち密な安山岩などが向いています。博物館などでは、石器作りに黒曜石を売っているところもあります。

### 皮革

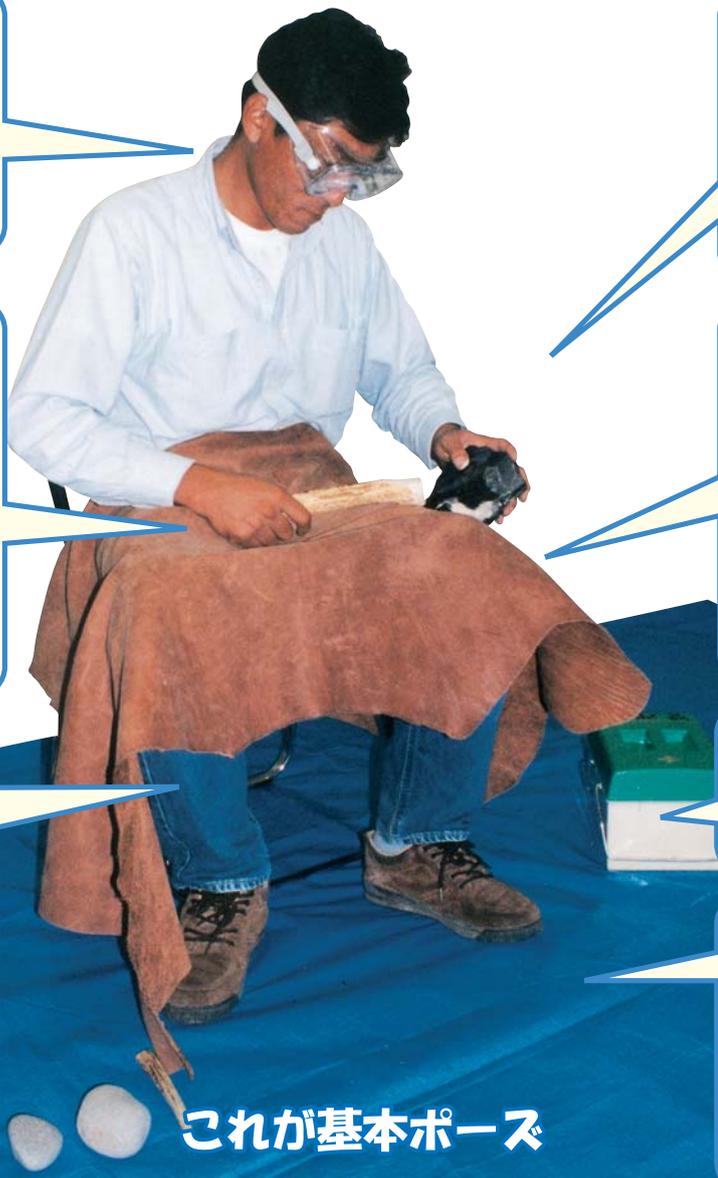
太ももの上で石を割っていくため、足にケガをしないように両足を覆うくらいの大きさのものを用意します。皮革がなければ、新聞紙やタオルで代用することもできます。手の中で細かく割っていくときのために、手のひら大のものも用意しましょう。

### 救急セット

ケガをしたときのため、消毒液、応急バンなどを用意しておきましょう。

### シート

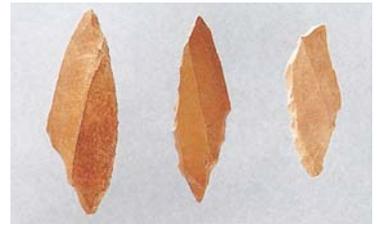
石器作りをする場所にシートを敷きます。こうすると片づけるのが簡単で、床を傷つけるのも防げます。シートがなければ新聞紙や段ボールなどを広げて使っても良いでしょう。



これが基本ポーズ

# ナイフ形石器を作ろう！

石器にはたくさんの種類があり、その作り方もさまざまです。ここではナイフ形石器を取り上げ、その作り方を説明しましょう。

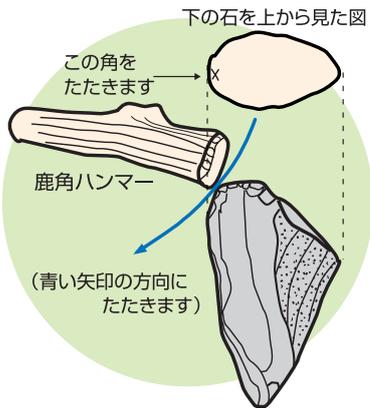


▲小山市・八幡根東遺跡出土 ナイフ形石器

## 1 はくへん 剥片を作る

もともになる大きな石(母岩)を割って薄い石のかげら(剥片)を作ります。この剥片が石器の材料になります。ハンマーは、鹿角かこぶし大の石を使います。力いっぱいたたけばいいわけではないので、たたく前に力のいれ具合やハンマーの角度、ハンマーのあたる場所などをよく考えましょう。

母岩のとがったところを見つけ、フチからちょっと内側に入ったところをたたきます。ハンマーは少しナメに当たるように振り下ろします。



▶母岩は太ももの上でおさえます。手をたたかないように気をつけて！

▶うまく割れると、このように剥片ができます。



## 2 剥片から石器を作る

剥片を細かく割って石器にしていくことを二次加工と言います。二次加工には、鹿角や小さい石などを使います。

剥片のフチのところをたたくと、裏側が薄くはがれるように割れます。ちょうど小さな剥片をたくさん作っていくように割っていきます。ハンマーの角度は、剥片を作るときと同じように少し斜めです。



断面図(上図の点線部分を割がすには、上から青い矢印の方向にたたきます)

ナイフ形石器の場合、刃とする部分は剥片の鋭いフチをそのまま残し、それ以外のところは二次加工をして手を切らないようにします。



できあがり！



【注意！】眼に付いた石くずは、たたき落とすこと。払い落とそうとすると、手を切ることがあります。黒曜石などは天然のガラスです。危険ですので、石くずは不燃ゴミとして捨ててください。

せきそく

### 石鎌はどうやって作るの？

石鎌を作るには、押圧剥離という方法で二次加工をします。これは鹿角のとがった部分を剥片のフチに押し当てて割っていく方法です。



完成品 ▶



この他にもたくさんの石器があります。作り方がわかったら他の石器にも挑戦してみよう！

# 2003年 発掘現場 レポート

遺跡には  
ロマンがいっぱい  
つまってます



当センターが発掘調査している現場から、最新の情報をご紹介します。  
発掘現場を見かけたらどうぞ声を掛けてください。

1

いちのづかいせき

## 市之塚遺跡 (芳賀郡二宮町大字高田字市之塚)

市之塚遺跡は二宮町の北東部に位置し、南流する小貝川西岸の二宮町大字高田字市之塚に立地しています。県営圃場整備事業に先立って23,200㎡を発掘調査することになりました。「市之塚」の名前が示すように近年まで、「一の塚」、「二の塚」と言う古墳が残っていたそうです。実際、調査では4基の円墳と小石棺墓2基を発見しました。

現在も調査中ですが、市之塚遺跡には古墳時代前期から後期（今から1,700年前～1,500年前）を中心とした大きなムラがあったことが分かっています。現在までに竪穴住居跡を約220軒発見しています。この他に、奈良・平安時代（8世紀～）、中世の掘立柱建物跡や溝跡・墓跡が見つかっています。

古墳時代前期（4世紀頃）では、東西方向にやや長い竪穴住居跡が多数確認されています。調査した中で一番大きいものは東西方向に8.7mで南北方向に8.5mの隅丸方形の竪穴住居跡です。

中世のものと考えられる長さ0.6mの方形の土坑の底面からは、直径約13cmの鏡が見つかり、その下から櫛と堅果類（クリ?）も一緒に出土しました。このことからこの土坑は中世のお墓の跡で、鏡や櫛があることから女性が埋葬されていたと考えられます。堅果類はその女性の好きな食べ物だったのでしょか？



上空から見た市之塚遺跡（北から）



鏡出土状況（南東から）



竪穴住居跡遺物出土状況（南から）



作業風景（南から）



小石棺墓完掘全景（南西から）

## 2

ひこ しち しん でん い せき

## 彦七新田遺跡 (芳賀郡市貝町上根地内)

この遺跡は、小貝川とその支流である大川に挟まれた丘陵の上にあります。調査は今年で3年目となります。これまでに見つかった主な遺構は、縄文時代の陥し穴12基、古墳時代後期～平安時代の竪穴住居跡89軒、掘立柱建物跡18棟がありますが、遺跡の中心となる時代は奈良・平安時代です。現在は遺構確認作業を進めています。作業員さんたちは現場事務所から調査区まで、毎日長い階段を昇っていきませんが、上に着く頃には、ちょっとした山登りでもしたように息切れがするくらいの場所です(写真①)。竪穴住居跡の多くは、緩やかに傾斜する斜面にあり、平らな場所にある遺跡に比べて、調査が大変です(写真②)。一見すると暮らしにくそうなこの場所に、人々が住んでいたわけを考えながら調査しています。



## 3

とち だいらびー い せき

## 栃平B遺跡 (那須郡馬頭町馬頭栃平地内)

栃平B遺跡は、縄文時代の遺跡として周知されていますが、今回の発掘調査で発見された遺構は古代～中近世のものばかりで、縄文時代は土器片が紛れ込んでいる程度です。遺跡の中心から外れていることもあります。遺跡は発掘してみないとわからないものです。

写真は方形の竪穴状遺構で、調査区の中央から10基ほど確認されました。一辺2～3m、深さ2m近くあり、覆土はロームと砂礫の混土で人為的に埋め戻されています。底面は全て岩盤まで達しており、凹凸がみられ、横穴が掘られているものもあります。また踏み締めた跡が残る段状の掘り残しが認められるものもあり、壁には掘削した当時の工具の跡がはっきりみられます。遺物は出土していませんが、これらの特徴から中近世の遺構と思われます。県内には類例が見当たらず、遺構の性格を考えるのに苦慮しています。



## 4

い せ さき さん い せき

## 伊勢崎Ⅲ遺跡 (真岡市伊勢崎地内)

この遺跡は真岡市の南部、江川の右岸に延びる見晴らしのいい台地の上にあり、古墳時代前期や奈良・平安時代の住居、中世以降の溝などが確認されています。

写真は奈良～平安時代の竪穴住居を西から撮影したものです。東側の壁には、煮炊きをしたカマドが二つ並んでいました。土層の観察から、南側のカマドを壊したあと床を貼り、北側に作り替えたことがわかりました。「台所のリフォーム」、といったところでしょうか。北側のカマドも最後には壊され、上に川原石や坏、瓦の破片が重ねて置かれていました。カマドの神様に、感謝の気持ちを込めて供えたものかもしれません。

また、この遺跡では、今から約2～3万年前、旧石器時代の人々が火を使ったり、石器を作ったりした跡が見つかっています。



# —発掘調査現地説明会— 「西赤堀遺跡」



5号墳



6号墳



5号墳石室の副葬品(鉄製品)

さる9月13日(土)に上三川町の西赤堀遺跡で発掘調査現地説明会が開かれました。当日は厳しい残暑にもかかわらず、周辺の地域の方はもとより県内各地から約300人の人々が参加され、遺跡及び北関東自動車道の概要の説明後、3班に分かれそれぞれ担当者から古墳や掘り出された遺物の説明を受けました。

西赤堀遺跡は北関東自動車道宇都宮・上三川インター以東の建設工事に先立って埋蔵文化財センターが平成13年1月から発掘調査を行ってきました。昨年度は谷地をはさんだ西側で古墳～奈良時代の大規模な集落跡が確認され、住居跡からは青銅鏡や漆紙が付着した土器などの遺物が見つかりました。本年度は谷地の東側を調査し、直径が20m以上もある円墳が2基(5・6号墳)確認され、4月から発掘調査を行ってきました。

その結果、それぞれの円墳で河原石を使用した「横穴式石室」が確認されました。横穴式石室は古墳の主の亡骸を納めた石積みの部屋で、古墳の中心となる重要な施設です。最近まで宅地や畑地であったため、5・6号墳とも石室の上部は壊されていましたが、5号墳の石室は一番奥の大きな石(奥壁)がそのまま残っていて、床面から鉄製の直刀や小刀・馬具・やじり、青銅製の耳かざりなどの副葬品が見つかりました。また、6号墳の石室は床石以外の周りの石(奥壁・側壁)はほとんど抜き取られ遺物

も残っていませんでしたが、周りの溝からは鉄製のやじりや斧、青銅製の耳かざりが見つかりました。

当日は、5・6号墳の大きさや立地、それぞれの石室のつくりや方位などを比較しながら説明し、プレハブの中に掘り出された遺物を展示しました。参加された人達の、熱心に説明を聞いたり質問したりする姿がとても印象的で、歴史や文化財に対する関心の深さをあらためて感じました。

西赤堀遺跡の発掘調査はこれで終了しますが、今までの調査結果を基に西側の集落跡と東側の古墳群との関連を含めた遺跡の全体像を明らかにしていきたいと思います。



遺物の説明

## 「ミュージアム氏家」

ミュージアム氏家は、氏家町出身の日本画家荒井寛方の作品等を展示する荒井寛方記念室。栃木県縁の現代作家作品を展示する美術・企画展示室。考古、歴史、民俗資料や映像、模型で氏家の原始・古代から近現代までを展示する考古・歴史展示室。氏家町出身の鋸研究者・吉川金次コレクションと関連資料で、鋸の変遷や機能を紹介する鋸展示室の4つで構成しています。

このほか、氏家に関連したテーマの企画展、巡回展の開催やギャラリーコンサート、土器づくり教室、各種講座等の普及啓発事業、第2、4土曜日には民家広場で、学校週5日制対応の「みんなのひろば」などの開催を行っています。



※文・写真 ミュージアム氏家提供

### 【今後の企画展】

10/25～11/30 平山郁夫からの緊急アピール「流出文化財を守れ アフガニスタンそしてイラク展」

入館料：一般800円 高大生500円 小中生300円

1/6～2/22 栃木日展・作家展「作家達の年賀状展」

### 〈ミュージアム氏家〉

所在地：栃木県塩谷郡氏家町氏家1297 Tel.028-682-7123

通常入館料：一般300円 高大生200円 小中生100円

## とちぎテレビ 「謎の道 東山道を探る」

平成15年8月3日に「とちぎの道と街～つなぐ道、出会う街～」という番組がとちぎテレビで放映されました。当センターの中山晋が旅人役の早稲田大学教授吉村作治さんに、東山道・長者ヶ平遺跡について説明しました。

東山道は、8世紀に古代律令制の国づくりにともない整備された道で、当時は約12mの道幅があり、細かい砂のような土と関東ロームを混ぜた土を、上から突き固めて作られていたことが判っています。また、約16kmごとに駅家と呼ばれる休憩所も設けられていましたが、その跡はまだ一つも見つかっていません。

長者ヶ平遺跡は、「コ」の字型に配置された掘立柱建物跡群が見つかっており、古代の役所跡ではないかと言われる遺跡です。しかし、そこからたくさんの倉の跡や焼米も発見されており、駅家跡ではないかとも考えられています。この地域には、奥州征伐の際にこの付近の長者の世話になった源義家が、このままにしておく自分の身が危ないと考え、帰りがけ倉に火を放ったという「長者伝説」が残っています。遺跡と伝説には、約200～300年の差があるとされ、その謎を解く上でも今後の調査が注目されます。



# 「埋蔵文化財活用のための基礎講座」

平成13年度から始まった本講座も3回目となりました。今年度は、7月28日・8月4日・5日の3日間にわたり開講しました。参加者の方々には、忙しい日程の中、熱心に講義や実習に取り組んでいただきました。

実習4のしもつけ風土記の丘資料館見学中に激しい雷雨となり、下野国分寺跡の現地解説が中止になってしまいました。しかし、館長さんのご配慮により、急遽、勾玉づくりをさせていただき、よいお土産もできました。

最後に参加者の方々から「本講座で実施した以外の遺物製作もやってみたい」「応用編を含む選択講義制の講座にしてほしい」など貴重なご意見をいただきました。



講義2「歴史概説1」風景



実習2「縄文土器製作」風景

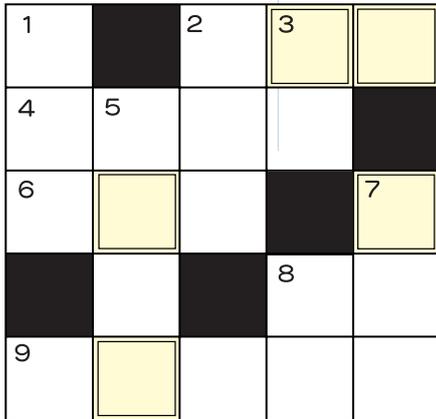
## ＜平成15年度の日程＞

- 7月28日 講義1「学校教育における埋蔵文化財の活用」  
講義2「歴史概説1（縄文時代の世界観と弥生時代の地方史）」  
実習1「縄文時代の技術体験 石器の製作」
- 8月4日 実習2「縄文時代の技術体験 縄文土器の製作」  
講義3「出土品等の取扱い方法（基礎編）」  
実習3「土器の接合および復元」
- 8月5日 講義4「歴史概説2（古墳時代の政治体制から国府・国分寺の法行政機構へ）」  
実習4「社会見学における史跡活用法（下野国分尼寺跡の現地解説・しもつけ風土記の丘資料館見学）」

※雨天により下野国分寺跡現地解説は中止となり、しもつけ風土記の丘資料館で勾玉作りを実施しました。

## クロスワードパズル

カギを参考に二重マスの字を並べ替えて下さい。



（クイズの解答はEメールまたはハガキで）

ヒント：  
痛い思いもする秋の味覚

- 8 7 5 3 2 1 《タテのカギ》
- おんよみ ↓ ○ ○ よみ
  - 2003年のえと
  - 今年が10月13日が ○ ○ ○ ○ の日
  - 液体をこす紙
  - イスラム共和国
  - 西南アジア、カスレ海の南に位置する
  - 隠して人に知らせないこと

### 《ヨコのカギ》

- 2 いなかの家で床を切り抜いて煮炊き用に火をたく装置
- 4 醤油の甘ダレがついた ○ ○ ○ ○ だんご
- 6 茂木町にあるカーレース場、○ ○ ○ リンクもてぎ
- 8 足に履く物
- 9 栃木県埋蔵文化財センターのある町は？

頭の体操をしましょう

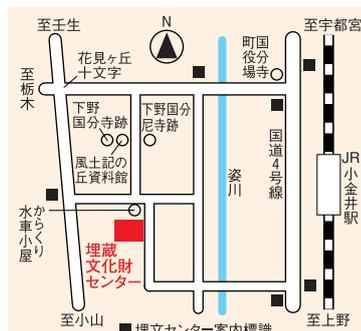
## 編集後記

今回は、特集として『石器作り』を取り上げてみました。怪我をしないように、よく読んでから石器作りに挑戦してみてください。きっと石器作りをしていた当時の人々が、現代の私たちになかなか真似のできない、素晴らしい技術をもっていたのを感じ取って頂けると思います。

また、今号より編集担当が代わりました。前任者の意思を引き継ぎ、今後も充実した内容にしていきたいと思ひます。ご愛読を。



編集 (財)とちぎ生涯学習文化財団  
埋蔵文化財センター  
発行 栃木県埋蔵文化財センター  
〒329-0416  
栃木県下都賀郡国分寺町大字国分乙474  
TEL 0285-44-8441(代) FAX 0285-44-8445  
E-mail webmaster@maibun.or.jp  
URL http://www.maibun.or.jp  
印刷 ヤマゼン コミュニケーションズ(株)



### 《埋蔵文化財センターへのご案内》

- JR小金井駅から  
約4km、車で約10分
- 東武壬生駅から  
約6km、車で約15分
- 東武栃木駅から  
約9km、車で約20分